

日本ラテンアメリカ学会

会 報

No. 1

1980年8月1日

第1号 目 次

1. 創立大会の開催
2. 理事会報告
3. 定例研究会のお知らせ
4. 事務局から
理事長あいさつ

会報発刊にあたって

日本ラテンアメリカ学会の会報第1号をおとどけします。本号は、創立大会の開催、理事会の報告等を中心に編集されていますが、次号からは、内外の研究動向、人物交流の紹介などを含めた、もう少し幅広い内容を盛りこみたいと考えております。よい着想や提案がございましたら事務局会報編集部までお寄せください。

本学会の設立趣旨の中で、全国のラテンアメリカ研究者相互間の研究連絡および内外他学会との交流が重点をおかれていることにかんがみ、今後この会報は、できるかぎりたくさんの方の情報をもりこんで、最低年4回発行を目標として発行し、また必要があれば特集号のようなものも刊行してゆきたいと思っております。現下の情勢では、印刷費の値上がりが目立ち、財政的な困難は覚悟せねばなりません。理事会のご理解と会員の皆様方のご支援によって、この会報をできるかぎり回数多く発行し、皆様に役立つものにして行きたいと考えております。皆様のきいたのなきご意見を期待いたします。

(会報編集部)

1. 創立大会の開催

学会設立準備会第1回会合が開かれたのは、1978年4月27日、発起人大会が開催されたのは1979年6月30日であったが、それ以来発起人代表会が9回にわたって開かれ、慎重に準備をかさねた結果、1980年6月8日午前10時15分から、東京四谷上智大学において、日本ラテンアメリカ学会創立大会が開催された。拍手多数で中川和彦(成城大学)が議長に選出され、下記の議事が審議されて会則の決定、役員を選出等がおこなわれた。大会当日における会員数は160名であったが、当日相当数の入会申し込みがあり、またその後も入会希望者がふえているので、本年10月末までに個人会員総数は200を越える見込みである。なお大会開会宣言時における会員出席者は75名、理事選挙時における出席者は88名であった。

i) 会則等の決定

発起人大会で承認された会則原案の審議がおこなわれ、若干の字句の修正が討議されてのち全会一致で採択された。つぎに、同じく発起人大会で決定された理事選出規定案の審議がおこなわれ、選挙における立候補を規定し、選挙管理委員会の立候補者名簿提出を義務づけた第4条3項を除く全条項が原案通り可決された。

ii) 選挙管理委員の選出

議長の指名によって、石井陽一(神奈川大)、市川正己(筑波大)、国本和孝(明治学院大)、佐藤久(東大)、福島正徳(拓殖大)の5名が選出され、昼食の休憩に入った。

iii) 理事の選出

休憩後大会は再開され、市川選挙管理委員より、理事候補者の連記定数を5名以内とし、6名以上記入したものは無効にするむね発言があつてのち投票に入り、終了後しばらくし

理事長あいさつ

増田 義郎

今回、日本ラテンアメリカ学会の理事長に選出され、理事諸氏とともに、学会の運営をおあずかりすることになりました。元来非力な人間なので、その任にふさわしくないことはじぶんがいちばんよく承知しておりますが、会員の皆様のご支援をいただいて、なんとか任務をやりとげて行きたいと念じております。

学会の使命は、会員の皆様の研究条件をすこしでも向上させるよう努力し、また会員相互間の研究連絡を円滑にすることによって、効果ある学問研究の場を作りだすことにあると思います。理事会も学会設立趣旨にそって上記の努力をおしまないつもりであります。会員の皆様方も、私どもの仕事に対し、どんどんご批判やサジェスチョンをくださって、学会全体の活動をつねに刺激してくださいようお願いいたします。

この場を借りてすこしばかり私の希望を述べさせていただきますと、さしあたってふたつのことを強調したいと存じます。まず第一は、この学会を、あくまでも開かれた、自由な団体にしておきたいということです。特定の人間が学会を支配したり、年功序列や権威主義を持ちこむことは好ましくありません。研究の上ではすべての研究者が対等であるべきだと信じます。そういう意味で、最初の理事会に若い方々がたくさん入ってこられたのは大それた結構なことだと思いますし、この傾向は今後も長くつづいてほしいと思います。

つぎに、この学会は、日本人に対して開かれているだけでなしに、外国の研究者に対しても開かれた学会でありたいと希望いたします。外国の学者と交流し、研究協力をおこなうことは、これからの日本の学問にとって特に必要なことであると思います。そしてわれわれの場合は、欧米の研究者と交流するだけでなく、ラテンアメリカ各国の学者と研究上の連絡をとることが欠かせない条件です。知的鎖国状態の中の学問はもうたくさんだ、というのが私の気持です。こうした見地から、地域研究の方法論などについても、皆様方と意見の交換をぜひいたしたいと思います。どうかよろしくおねがいします。

て、午後2時から開票結果が報告された。投票者総数86名、有効投票総数418(2名連記1名、3名連記1名、4名連記6名、5名連記78名計419票、うち無効票1)で、結果は以下の通りであった。

1. 山田 睦男(筑波大)	50票
2. アンドラーデ、グスタボ(上智大)	44
3. 山崎 春成(大阪市大)	30
4. 増田 義郎(東大)	26
4. 原田金一郎(大阪経済法科大)	26
4. 野谷 文昭(津田塾大)	26
7. 国本 伊代(中大)	22
8. 中川 和彦(成城大)	16
9. 水野 一(上智大)	13
10. 石井 章(アジア経済研)	12
次 清水 透(東外大)	11
次 岡部 広治(福島大)	10

次 巢山 靖司(大阪外大) 10票

以上のうち第10位までが理事に当選、次点の3名は補充理事として承認された。

IV) 監事の選出

議長提案により、監事は議長に指名が一任され、市川正己(筑波大)、佐藤久(東大)が指名をうけ、承認された。

~~~~~  
本来の予定では、理事の選出は午前中に終り、昼食時間中に理事会が開かれて理事長が選ばれる予定だったが、議事が遅れていたためここでシンポジウム「日本におけるラテンアメリカ研究」が山崎春成(経済学、大阪市大)司会のもとにおこなわれた。参加者は、発言順に文化人類学、大貫良夫(東大)、文学、木村栄一(神戸市外大)、歴史学、染田

秀藤(大阪外大), 経済学, 水野一(上智大), 医学, 安羅岡一男(筑波大)であり, それぞれ興味ぶかい発表がおこなわれたあとで, 参加者から活発なコメントや質疑が出された。

~~~~~  
V) 理事長の選出

ここでふたたび休憩に入り, その間に第1回理事会が開かれた結果, 増田義郎(東大)が理事長に選出され, 総会に報告された。新理事長は就任あいさつのち, 本年度の事業計画の提案に入り, 予算案, 研究活動, 学会誌, 会報の編集, 発行, 次期大会等について説明して了承を得た。

~~~~~  
総会が終了してただちに記念講演会にはいった。アメリカのラテンアメリカ研究学会の会長であり, ピッツバーグ大学ラテンアメリカ研究所長であるカルメロ・メサニゴ教授が, まず英語で「アメリカ, ヨーロッパ, ラテンアメリカにおけるラテンアメリカ研究」と題する講演をおこない, つぎにリオ・デ・ジャネイロ連邦大学文学部長エレナ・ゴメス・パレンテ・クーニャ教授が「カルナバル化と文学」の表題のもとにポルトガル語で講演をおこなったが, 社会科学, 人文学の両分野からのラテンアメリカ人の現役研究者の発言は, いずれも内容に富み, ひじょうに印象ぶかいものであった。

~~~~~  
以上で日中の予定はすべて終了し, 午後6時30分から上智会館で会員多数の参加のもとに, 懇親会が開かれた。まず上智大学を代表して, 橋口倫介(ともすけ)副学長があいさつされ, つぎに東外大の山口昌男氏の音頭で一同乾盃。そのあと8時すぎまでなごやかに交歓がおこなわれた。

なお, 上記のシンポジウムと記念講演の内容は, 学会誌第1号に掲載される予定である。

2. 理事会報告

○第1回理事会 於上智大学 1980年6月8日
創立大会において選出された理事10名は, 同日午後ただちに第1回理事会を開き, 互選の結果, 増田義郎を理事長に選出した。ついで理事長から, 総会にはかる1980年度事業

計画原案が提出され討議の結果, 予算案に関して, 根本的な見直しをすることを申しあわせたほかは, 原案通り承認した。なお, 当日は時間の余裕がないため, 6月28日に第2回理事会を開き, 今年度事業の実行その他に関し, 詳細な検討を加えることにした。

○第2回理事会 於東京大学 1980年6月28日
10名の全理事出席のもとに開催され, 以下の件が討議された。

- i) 新入会希望者21名について書類を検討した結果, 18名の入会を承認。残りの3名については, 専攻分野等につき不明点があるので, 照会の上再検討することにした。
- ii) 個人会員の募集について各理事がさらに努力することを申しあわせ, 出版社等を中心に, 賛助会員をつのることを決定した。
- iii) 学術会議から送付のあった「学協会活動状況調査票」に記入返送し, 日本学術会議第68回総会で定められた内規の条件を満す, いわゆる登録学会の資格を得るよう今後努力することを申しあわせた。

iv) 事務局は, 東京大学教養学部内中南米分科研究室内におくこととし, 理事会を補佐する運営委員として, 恒川恵市(東京大学)および大貫良夫(東京大学)の両氏を依頼することを決定した。

V) 次のように理事の職務分担を定めた。

会計・庶務・会員関係	山田睦男
編集	国本伊代
	野谷文昭
総会・研究会	石井 章
	山崎春成

(研究会の東日本部会は石井, 西日本部会は山崎担当)

国際交流 グスタボ・アンドラーデ
なお, 研究会(東日本部会)の担当運営委員として, 細野昭雄氏(筑波大学)を依頼することを決定した。

vi) 今年度の事業について下記のことが決定された。

- a) 予算は, 印刷費等の値上りを考慮し, また事務局運営の実務が発足して生ずるさまざまな需要を予想すると, 根本的修

正が必要と考えられるので、今後収入、支出の額をさらに正確に計算し、年次中途で理事会において再検討すること。

- b) 研究会は、少くとも本年秋に1回、来年春に1回開催することを目標とし、また開催通知は全会員に出すこと。
 - c) 会報の第1号を7月中に出すこと。
 - d) 学会誌は創立大会のシンポジウム、講演等を中心に編集することとし、近く編集委員会を設ける。
 - e) その他、学会員の研究連絡を密にするため適切な方法を考える。
- vii) 1981年の第2回年次大会は、開催場所としてアジア経済研究所、つぎに成城大学を候補とし、必要な準備をおこなう。

3. 定例研究会のお知らせ

第1回定例研究会を、東日本部会は10月後半に、西日本部会は11月中に開催する予定です。報告を希望される方は、東日本部会は9月10日まで、西日本部会は9月末日までに、下記にご連絡ください。また研究会の運営に関するご意見をお寄せください。

連絡先

東日本部会

石井章理事 東京都新宿区市ヶ谷本村町
42 アジア経済研究所 電話 03-353
-4231 (内 318)

細野昭雄運営委員 茨城県新治郡桜村
筑波大学ラテンアメリカ特別プロジェクト 電話 0298-53-2380

西日本部会

山崎春成理事 大阪市住吉区杉本町 大
阪市立大学経済研究所 電話 06-692
-1231

4. 事務局から

。著書および論文抜刷等をご寄贈ください。

会員の方々の業績を系統的網羅的に学会事務局で収集整理して保管し、閲覧のため公開したり、文献目録作成の資料にしたいと考えております。ぜひご著書、論文抜刷などを事務局にお送りください。お送りいただいた業績のリストは、会報等に発表したいと思っております。

。会報のため、原稿や資料をお送りください。

各地で開催されている研究会、諸研究センターにおける活動、ラテンアメリカ関係の研究や出版に関する情報を事務局にお知らせください。またそれらについて原稿を書いていただければ幸いです。

。研究論文の投稿を

研究誌(年刊)の発行が計画されています。いずれ編集委員会が設けられますが、研究論文の投稿を期待いたします。次号で研究誌の詳細についてお知らせできると思っています。

。住所、勤務先変更があったらお知らせください。

事務局では、個人会員のカード作製をおこなう予定です。近い将来、会員数も確実に200人を越すと考えられますので、新しい会員名簿の発行も必要になると思っています。そのため、会員に関するデータをいつも正確に把握しておきたいと考えますので、住所、勤務先等に変更がありましたら、すぐ事務局にお知らせください。

。1980年度会費をまだ納めておられない方は、下記へ払いこんでください。

第一勧業銀行渋谷支店

普通預金 1262358

名義 日本ラテンアメリカ学会代表
増田義郎

No. 1 1980年8月1日発行

日本ラテンアメリカ学会事務局

〒153 東京都目黒区駒場

3-8-1

東京大学教養学部第8本館

中南米分科気付

☎(467) 1171

内線581